

戦国武将 昔、日向の国にHEROがいた —— 島津豊久という男



1分半でわかる！ 島津豊久の一生

人並み外れた勇ましさと強さ、大胆さを豊臣秀吉も恐れたという島津家久を父に持つ。父を含む、義久、義弘、歳久の「島津四兄弟」は一時、九州全土を席卷するほどの勢力だった。

豊久は父・家久が佐土原城主となったことで串木野(鹿児島県)から日向国へ。15歳で父ら島津家の武将とともに「沖田畷の戦い」(島原の戦い)で初陣を果たし、10倍以上の数の敵を壊滅させる父の戦略を目の当たりに。自身も敵将を討つ働きを見せた。その後、一説には豊臣秀吉による毒殺ともいわれるが、父が41歳で急死。豊久は18歳で佐土原城主となり、約3万石の豊臣大名となる。23歳で朝鮮へ出兵。数々の武勲を立て、13の首と鼻を秀吉に送ったという話も残る。2度目の朝鮮出兵まで、6年間陣を張った。

国に戻り、重臣の謀反を制圧した都城での9か月間の戦い、庄内の乱を経て、同年佐土原から伏見(京都)へ。大名の務めとして都に上がったようだが、そんな折、石田三成が拳兵。徳川家康率いる東軍と相対する三成率いる西軍の武将として、伯父・島津義弘とともに関ヶ原の戦いに参戦する。小早川秀秋の裏切りにより、島津軍は数万の敵の真ただ中に1,500人ほどで取り残される。死を覚悟し、敵に向かって行こうとする義弘に、豊久は「島津家の行く末は義弘公にかかっている」と説得。義弘の盾となるべく敵中突破をはかり、敵陣へ。討死し、30歳という若さで人生を終える。



監修
志学館大学 非常勤講師
新名 一仁さん

1971年、宮崎市生まれ。鹿児島大学卒業後、東北大学で博士号(文学)取得。みやざき歴史文化館、宮崎市きよたけ歴史館学芸員を経て、現職。著書に『島津四兄弟の九州統一戦』(星海社新書)、『島津貴久 - 戦国大名島津氏の誕生』(戎光祥出版)など。現在、「上井覚兼日記」の現代語訳版を執筆中。

豊久にまつわる3つのキーワード！

1. 美男子だった？

江戸時代に国学者・白尾国柱が薩摩に伝わる故事、軍記、偉人などをまとめた『倭文麻環(しずのおだまき)』という本で豊久はこのように記されています。「世に類ひなき容顔美麗なるのみならず、智勇卓犖(たくら)くたる少年」。つまり「他に比べようのないほどの美男子であるばかりでなく、この上ない知恵と勇気をもった少年」ということとです。「豊久=美男子」説が生れました。

は天然痘にかかった記述があり、顔にその跡があったのではないかと新名さんは推測します。関ヶ原での討死による顕彰の意味もあり、「美化された可能性も」(新名さん)。「島原軍記」という別の書物には、豊久は軽い吃音で言葉の少ない人物であったとも書かれ、その様子がかえって上品に見えたのではという専門家もいます。真相はわかりませんが、「あばたもえくぼ」と言いますし、顔自体は端正で物静かで勇ましい豊久……。地元のヒーローとしてはやっぱり美男子であってほしい……ですね。

2. 人生のほとんどを戦場で過ごした？

元服(16歳)前に北部九州を治めていた戦国大名・龍造寺隆信と戦った沖田畷の戦いで初陣を果たし、敵将を一人討ち取ったとも言われている豊久。父・家久譲りの戦上手であったことは間違いないようです。年表でもわかりますが、豊久の人生は戦いの記述ばかり。二度の朝鮮出兵から帰国した翌年には、島津領内で重臣が蜂起した庄内の乱へ。その翌年には関ヶ原の戦いで大将でありながら、自らおとりとなって島津家当



3. 10代から酒豪だった？

戦国時代の島津家では、毎晩のように酒を飲んでたそう。先述の『上井覚兼日記』には、豊久が17歳の頃、今の宮崎市大字塩路付近に「鴨網狐」に出かけた際の酒豪ぶりが描かれています。鴨網狐とは、現在では

全国で石川県加賀市と宮崎市でのみ行われている、巨大な網で鴨を捕獲するもの。当時は秋の鴨猟シーズンに近くの宿に泊まり、夜更けまで酒宴。二日酔いになる者が多い中、豊久は明け方から元気に狐に出かけたと言います。「当時のお酒はどぶろくのような日本酒か泡盛だったと考えられます。薩摩人は酒に強いイメージですが、豊久は中でも強い方だったのでは」(新名さん)とのこと。

「関ヶ原の戦い」での島津豊久



「戦国合戦図屏風」(岐阜市歴史博物館所蔵)に描かれた豊久。丸に十字の島津家の旗印も見える。写真提供：岐阜市歴史博物館



あの「関ヶ原の戦い」に佐土原城主であった大名が兵をあげ、30歳の若さで討死していた——。今年はその「島津豊久」の生誕450年にして、死後420年の記念すべき年。昨年、漫画、アニメの主人公にもなり、日本全国でにわかに注目される戦国武将、島津豊久の短くも果敢に戦った人生を見ていきます。

豊久に関する年表

年	出来事
1570	元亀元 父・島津家久が薩摩国の串木野城主となり、豊久が生まれる
1579	天正7 家久が佐土原城主となり、居城を移す
1584	天正12 15歳、「沖田畷(なわて)の戦い」で初陣
1587	天正15 18歳、家久の急死により佐土原城主となる
1592	文禄元 「文禄の役」、伯父・義弘らとともに朝鮮へ出兵
1597	慶長2 「慶長の役」、再び、義弘らとともに朝鮮へ出兵
1599	慶長4 「庄内の乱」に出兵
1600	慶長5 30歳、「関ヶ原の戦い」で討死

※満年齢で記しています

豊久終焉の地には諸説あるが、岐阜県大垣市の「烏頭坂」付近とするのが通説である。ここには豊久の顕彰碑が立てられ、地元の人が今なおその功績をたたえている。

佐土原城は豊久亡き後、徳川家康に没収され、行き場を失った豊久の家臣たちは島津本家のある鹿児島(日置市吹上町永吉地区)へ。その後、豊久の伯父・義久、いとこの忠恒により佐土原城の返還を家康に要求し、1603(慶長8)年、父・家久のいとこにあたる垂水島津家の以久が佐土原城主となる。

イラスト 小俣麦穂(表紙、P4-5)